

2023年度

環境経営レポート

対象期間 2022年12月1日～2023年11月30日



2023年12月28日 発行

株式会社 大和精機製作所

YSS 株式会社 大和精機製作所

環境経営理念

株式会社 大和精機製作所は、地球環境保全と事業活動の両立を基本理念として地域社会への貢献に努めます。

第73期環境経営方針

1. 環境に配慮した事業活動を通じて、省資源、リサイクル、廃棄物削減、省エネルギーを推進します。
2. 環境目的及び目標を設定し、その達成に努め、継続的改善を図ります。
3. 関係する環境の法的要求事項、及び当社が同意するその他の要求事項を順守し、汚染の予防に努めます。
4. この方針は全従業員に周知させ、社外へも公開します。

第73期環境経営目標

1. 二酸化炭素(電気・灯油・軽油・ガソリン・ガス)排出量削減 1%

2022年12月1日
株式会社 大和精機製作所
代表取締役 水嶋大輔



組織の概要

1. 事業所名

株式会社 大和精機製作所 代表取締役 水嶋大輔

2. 所在地

杉並本社	住所 東京都杉並区堀ノ内2-39-10	TEL 03-3315-7291 FAX 03-3313-1988
厚木第一工場	住所 神奈川県厚木市上依知510-1	TEL 046-246-5481 FAX 046-246-5481
厚木第二工場	住所 神奈川県厚木市上依知585	TEL 046-246-5450 FAX 046-246-5482
三郷事業所	住所 埼玉県三郷市彦成5-147-3	TEL 048-950-7671 FAX 048-950-7660

3. 事業内容

- ①事業内容 : 自動車部品、建設機械部品の製造
- ②事業規模 : 従業員数 37名
- ③認証内容 : 全社(杉並本社、厚木第一工場、厚木第二工場、三郷事業所) ; 全活動

4. 実施体制

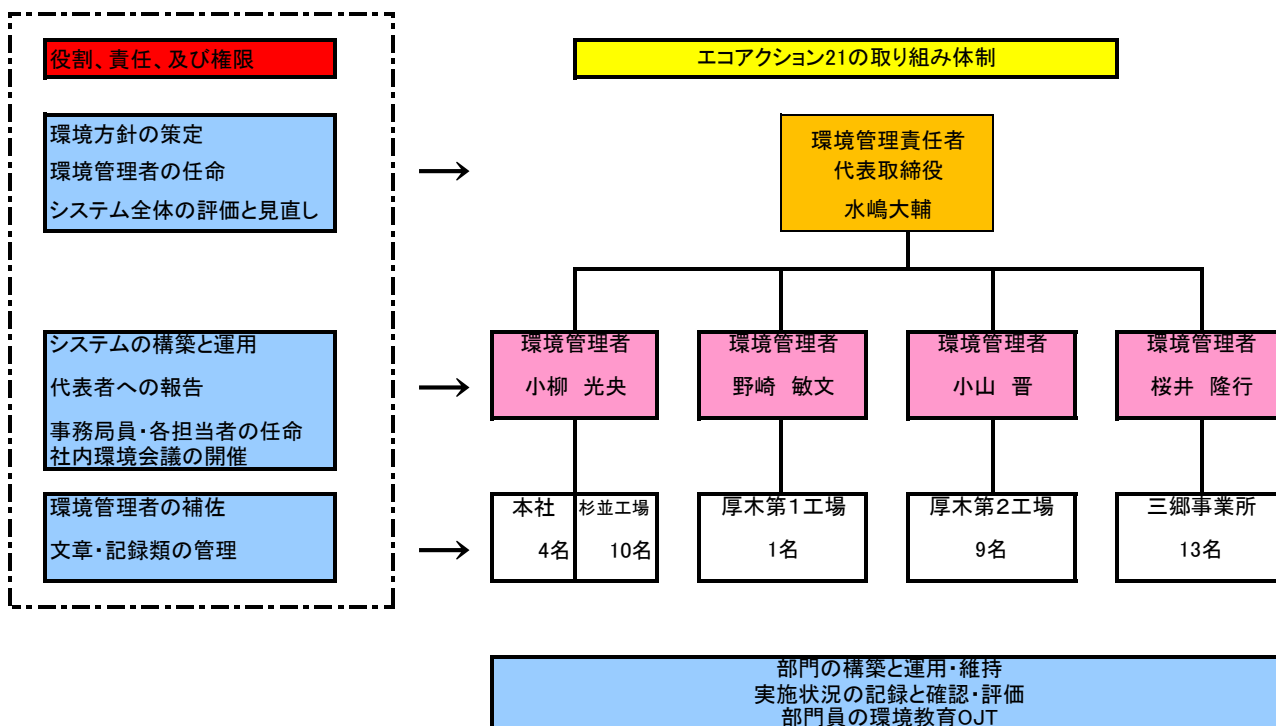
①環境管理責任者

代表取締役 水嶋大輔 E-mail mizushimad@yamatoss.co.jp TEL 03-3315-7291 FAX 03-3313-1988

・ 環境管理者

杉並本社	小柳 光央	E-mail oyanagim@yamatoss.co.jp	TEL 03-3315-7291 FAX 03-3313-1988
厚木第一工場	野崎 敏文	E-mail koyamas@yamatoss.co.jp	TEL 046-246-5481 FAX 046-246-5481
厚木第二工場	小山 晋	E-mail koyamas@yamatoss.co.jp	TEL 046-246-5450 FAX 046-246-5482
三郷事業所	桜井 隆行	E-mail sakurait@yamatoss.co.jp	TEL 048-950-7671 FAX 048-950-7660

②実施体制



5-1 中長期環境経営目標

(全社)

中長期環境経営目標		承認	作成		
		水嶋	杉並、小柳	厚木、小山	三郷、桜井
環境経営目標	2022年度 実績、基準値		2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
二酸化炭素排出量の削減					
	電力使用量の削減	130422.0kWh	129117.8kWh	127826.6kWh	126548.3kWh
	燃料使用量の削減(ガソリン)	967.8ℓ	958.1ℓ	948.6ℓ	939.1ℓ
	燃料使用量の削減(軽油)	2793.6ℓ	2765.7ℓ	2738.0ℓ	2710.6ℓ
	燃料使用量の削減(灯油)	2463.7ℓ	2439.1ℓ	2414.7ℓ	2390.5ℓ
	燃料使用量の削減(LPガス)	154.1kg	152.6kg	151.1kg	149.5kg
	燃料使用量の削減(都市ガス)	649.7kg	584.8kg	526.3kg	473.7kg
廃棄物排出量の削減					
	一般廃棄物の削減	4097.8kg	4056.8kg	4016.3kg	3976.1kg
	産業廃棄物(廃液)の削減	800.0ℓ	792.0ℓ	784.1ℓ	776.2ℓ
用水使用量の削減					
	用水使用量の削減	443.0m ³	438.6m ³	434.2m ³	429.8m ³
環境に配慮した製品の提供 (設計・生産・販売)					
	業務効率の向上	3件	4件	5件	6件

5-2環境経営目標と実績

(全社)

当社の環境負荷削減のため、環境目標を設定し、活動した。

活動期間： 2022年12月01日～2023年11月30日

	単位	実績値		目標値	達成率	評価
		実績値	昨年実績			
二酸化炭素ガス排出量削減 排出量	kg-CO ₂	72581.14	77101.63	76330.61	105.2%	○
電気使用量	kWh	125066	130422	129117.8	103%	○
ガソリン使用量	ℓ	700.89	967.81	958.1	137%	○
軽油使用量	ℓ	2471.14	2793.6	2765.7	112%	○
灯油使用量	ℓ	2368.588	2463.723	2439.1	103%	○
LPガス使用量	kg	152.38	154.13	152.6	100%	○
都市ガス使用量	kg	479.57	649.74	643.2	134%	○
廃棄物廃棄物量の削減						
事業系一般廃棄物	kg	3247.5	4097.8	4056.8	125%	○
産業廃棄物(廃液)	kg	400	800	792.0	198%	○
総排水量(または取水量)の削減	m ³	424	443	438.6	103.4%	○
化学物質使用量の削減	ℓ	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
設備の環境配慮	件	5	3	4	125%	○

〈評価の表記〉： ○達成、×未達成

電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力実排出係数

0.457 kg/kwhを使用。

6. 環境経営活動計画、取組の結果とその評価、次年度への取組み

当社環境活動への理解が浸透し確実な取組がなされた。次年度に向けてはエコドライブでの教育や社員交流を行い、意識向上を図りたい

環境目標	取組み	結果	評価	次年度取組
二酸化炭素排出量の削減	エアコン温度管理	設定温度 夏 28度 冬 20度	○	継続して実施
	車両の使用	極力、荷物をまとめて 利用回数が多少軽減	○	継続して実施
	蛍光灯見直し	先行してよく使うところから LED蛍光灯へ交換した。	△ 一度で交換不可	継続して実施
	不要照明の消灯	昼休消灯が確実に実施され。 通常時の不要箇所も消灯	○	継続して実施
廃棄物排出量の削減	分別廃棄	分類出来てきたが、まだ完全 では無い	△ グレーゾーンの 物が、分かりず らい	継続して実施 表示を追加
総排水量（水使用量）の削減	手洗い時水の出しっ 放しをなくす	全員が実施	○	継続して実施
設備の環境配慮	不要時の電源オフ	休憩時に、消灯 機械電源も、オフ	○	範囲を広げて実施
	機械メンテナンス	多少は出来てる。	△ 時間不足	継続して実施 清掃時間の設定
業務効率の向上	不良品(B品)の再利用(三郷)	再利用に、限りがある コスト的に、手間が掛かる	× メリットが無い	加エジグの製作
	段取り時間の短縮(杉並)	類似品にも水平展開を実施、 治具取り換え時間の短縮が向上。	○	継続して実施
	工具購入の見直し	値上げ前、工具まとめて購入	△ 購入量に限りがある為 効果は薄い	継続して実施
	限度見本製作、検査時間の短縮(杉並)	一部の部品で限度サンプル製作した。時間短縮効果は軽微。	△ 一部では効果薄	継続して類似部品へ水平展開を検討
	歩留まりの向上(杉並)	工法変更で加工精度向上した結果、歩留まりが改善した。但し、工数増加が問題点。	○	継続して実施

〈評価の表記〉： ○（達成率100%）、△（達成率100%>0%）、×（達成率0%）

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、訴訟等の有無

主要な法規	確認内容	評価の結果	遵守状況	該当工場
廃棄物の処理と清掃に関する法律	産業廃棄物のマニフェスト管理	確実に実施された。	○	全工場
	マニフェスト交付一覧表・ファイル作成	確実に実施された		
	契約書の確認	問題なし		全工場
	保管所技術基準の遵守	確実に実施された。		
化管法	取扱い無し	該当無し	○	全工場
フロン排出抑制法	1、廃棄品はありませんでした 2、点検実施	確実に実施された。	○	杉並
				三郷
家電リサイクル法	廃棄品はありませんでした	該当無し	○	全工場
毒劇法	取扱い無し	該当無し		—
浄化槽法	定期点検の依頼、書類の管理	確実に実施された。	○	三郷
騒音規制法 振動規制法	法令に基づき申請	確実に実施された。	○	厚木
都民の健康と安全をの確保する環境に関する条例	条例違反がないことを確認しました	確実に実施された。	○	杉並
神奈川県生活環境の保全に関する条例	条例違反がないことを確認しました	確実に実施された。	○	厚木
埼玉県生活環境保全に関する条例	条例違反がないことを確認しました	確実に実施された。	○	三郷

環境関連法規への違反はありません。なお、関連当局よりの違反等の指摘は、過去三年間ありません。訴訟もありません。

8. 代表者による全体評価の見直し結果

ガソリン、燃料等、エネルギーコストの上昇が止まらない昨今においても、今まで以上にEA21の取り組みを行うことで、会社経営のプラスになるよう努力していきたいと考えております。

また社内での業務改善の取り組みも例年以上に積極的に取り組んでおり、まだ明確な結果にまでは結びついていないかも知れませんが、こちらも継続的に取り組んでいきたいと考えております。

来年度も、環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、及び実施体制は変更せず継続を行います。